

ふるさと納税の魅力とは？



返礼品がもらえる

多くの自治体では、寄付者に対して返礼品を届けています。自治体によっては、返礼品を通じて全国の人に地域の特産品や産業を知ってもらう良い機会になっています。



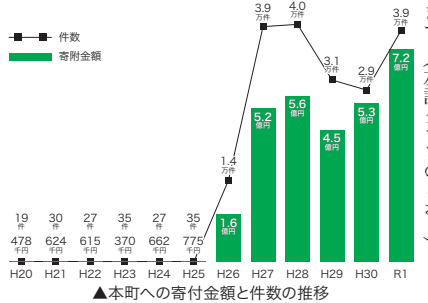
税金が控除(還付)される

寄付者は確定申告またはワンストップ特例制度の申請をすることで、寄付金額に応じて所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。



寄付金の使い道を指定できる

ふるさと納税では、寄付者がその用途を選択することができます。寄付金の使い道から、寄付先の自治体を選ぶこともできます。



▲本町への寄付金額と件数の推移

寄付総額は29億円

制度創設以来、昨年度までの本町への寄付総額は約29億円となっています。(左記グラフのとおり)

全国の方が本町に寄付をするきっかけになっている理由の一つが、ふるさと納税のポータルサイトです。ポータルサイトとは、さまざまな情報の入り口となるウェブサイトのことで、利用者はこのサイトを経由することで、目当ての情報を得やすくなります。

町ではさらなる寄付の増加を図るため、平成26年度に㈱トラストバンク(東京都)が運営するふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」の活用を始めました。ふるさと納税のポータルサイトは、寄付者に

ポータルサイトで寄付が増加

これほどの寄付をいただくことができた背景の一つには、ポータルサイトの存在があります。



▲ふるさと納税ポータルサイト(ふるさとチョイス)

とって全国の自治体の情報を比較しながら寄付先を選ぶことができ、寄付までの手続きがスムーズに行えるというメリットがあります。

ポータルサイトの活用後は早速その成果が表れ、寄付件数は前年と比較し約400倍に増え、寄付金額は初めて1億円を超えました。現在では複数のポータルサイトを活用し、本町のふるさと納税をPRしています。

今後、ふるさと納税は自治体の創意工夫がますます重要になります。三川町の取り組みは、制度の発展において、全国の自治体の手本になるものです。

ふるさと納税は 目的に非ず、手段である

㈱トラストバンク 代表取締役 川村 憲一さん

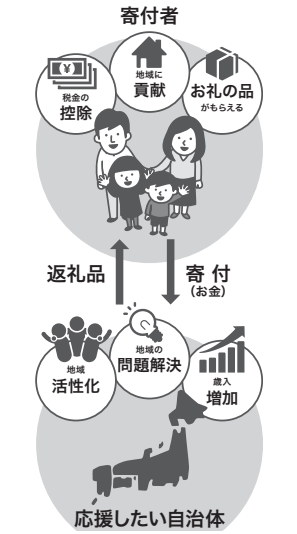
弊社では、ふるさと納税を短期的な寄付集めではなく、関係・交流人口の増加や地域産業の発展につなげるための手段として捉え、地域創生に大切なことだと考えています。

三川町は、「町のファン」づくりを力を入れていますが、特に「米どころ」を前面に出したPR活動は、全国でも先進事例となっています。また、今人気の返礼品「天然モクズガニ」は、地元でも食べる方が少なくなる中、町の担当者が事業所のチャレンジを後押しするために返礼品に加えられたものと聞いています。地元での認知度が低い品物であっても、全国の寄付者からは特産品として認識されるといってマーケティングの視点を伝える活動にもつながっています。



特集 おらほのまちのふるさと納税

ふるさと納税とは？
ふるさと納税は、生まれた故郷や応援したい自治体に寄付ができる制度です。



ふるさとへの想いを形に

近年、都市部の人口集中と地方の人口減少が顕著となり、地方では税収の減少による財政の悪化が懸念されています。地方財政の健全化を図り、自主・自律的な財源の確保が課題となる中で創設されたのがふるさと納税でした。

地方で生まれた人の中には、やがて進学や就職で生活の場を都市部に

移す人もいます。その結果、都市部の税収は増えますが、地方の税収は減少するという状況が生まれます。

ふるさと納税は、「地方出身者が自分を育ててくれたふるさとに恩返しをする」という想いに始まり、「自分が応援したい自治体に自由に納税できる制度があってもいいのでは」という考えから、平成20年に導入されました。

本町では「ふるさと応援寄附金」(以下「ふるさと納税」)の制度を活用し、全国からたくさんの方々がふるさと納税をいただいています。令和元年度には、町の歳入全体(約62億円)の11.6%を占める約7億2,000万円(過去最高額)の寄付をいただきました。

本町のような小さい自治体であっても、これほどの寄付がいただける背景には、魅力的な特産品を生産する事業者の協力と町の取り組みの成果があります。ここでは、事業者の方々とともに本町が行ってきた取り組みを紹介いたします。



▲寄付者との交流イベント「ふるさとチョイスcafé」の様子
(写真の一部を加工しています)

「三川ファン」をひらく
寄付者の中には、返礼品として受け取った本町の特産品を気に入って、何度も寄付をされる方や、事業者から直接商品を購入する方もいます。こうした方々とのつながりを大切にしていきたいという想いから、昨年度には寄付をきっかけに「三川のファン」となった方々との交流イベントを東京都で開催しました。イベントでは、本町産の米の食べくらべをしてみたら、さまざまな食材をその場で味わってもらい、寄付者の方々に本町の特産品をPRしました。

寄付者の声

応援の声がたくさん届いています

Aさん

お米が本当においしくて、毎年お世話になっています。電話で手続きの照会をした際も、丁寧に対応いただきました。ありがとうございます。これから応援します。

Bさん

もう6年もお世話になっています。紳士的なご対応ありがとうございます。

Cさん

何度も寄付していますが、毎回返礼品が届くのを楽しみにしています。実家でも寄付しており、つや姫のファンが増えていくと嬉しくなります。三川町が制度導入当初からコツコツと取り組んできたことも忘れられません。

Dさん

お米や野菜がおいしく、丁寧に梱包されていて、生産者をはじめ関わる皆さんの心がこもった温かいお礼の品に感謝しながらいただいています。

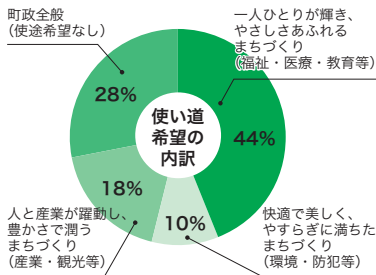


▶事業者と連携し、新たな特産品の開発や経営を支援するさまざまな事業に活用しています。写真・町内産米を使用した特別純米酒「号 彌太右衛門」



▲今年7月にオープンした子育て交流施設「テオトル」の整備にも活用されました。

ふるさと納税をまちづくりに



▲寄付者が希望する寄付金の使い道

町では寄付者の希望に沿うよう、寄付金をまちづくりに活用しています。また、町の自主財源の確保、特産品の生産・販路の拡大という2つの視点から、ふるさと納税を重要な取り組みの一つとして、今後も事業者の皆さまと連携して取り組んでいきます。

※返礼品を提供して下さる事業者を随時募集しています。詳しくはお問合せください。
○問合せ先 役場産業振興課 商工観光係
☎ 35-7014

三川の誇れる特産品を全国に

本町がふるさと納税で人気を集める理由の一つが充実した品ぞろえの「返礼品」です。

事業者の方々から提供される返礼品は、米どころの本町ならではのブランド米や旬の野菜・果物、加工食品など、食品を中心に人気を集める品を多く取りそろえています。

また、近年の寄付の増加をきっかけに本町の特産品の需要は高まってきており、事業者にとって商品を返礼品として提供することは、販路の拡大につながるというメリットがあります。

返礼品提供事業者の声



米を提供 農業 菅原 誠さん (対馬)

厳しい経営の中でも販路拡大に

平成26年度から米を返礼品として提供しています。平成28年度から「有機玄米」の提供を始めたところ、「玄米を食べたい」という全国の寄付者の方からお選びいただけるようになりました。

米づくりを始めて50年。自然相手の厳しい稲作経営の中、お届けしたお米がおいしいというメッセージをいただき、改めて米づくりへの情熱を膨らませながら、返礼品を通じて三川町を応援してくださる皆さまと信頼を深め、豊かな社会環境に貢献できればと思っています。



▲米工房源六の有機栽培米 令和2年産の新米が順次発送されています。



食肉製品を提供 株式会社東洋食品 代表取締役社長 横山 與一さん

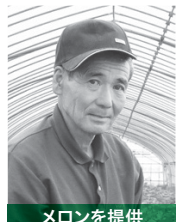
自社製食品を全国にPR

弊社は牛タンなどを自社加工しBtoB(企業間取引)で販売している事業所で、平成28年度から返礼品提供事業者に登録しています。当初はスモークターキードラムを出品し、多くの寄付者の方々にお届けすることができました。現在は、年間を通して5品を返礼品として提供しています。

ふるさと納税を通じ、寄付者の皆さまに直接商品をお届けでき、全国の皆さまに当社商品を知っていただく良い機会になっています。



▲スモークターキードラム クリスマスに合わせてこれからの時期に注文が増える一品です。



メロンを提供 農業 成澤 秀雄さん (成田新田)

寄付者のメッセージが励みに

平成27年度からメロンを返礼品として提供しています。

以前、全国放送の朝の情報番組で人気の返礼品として私のメロンを紹介してもらったことがあり、その時には放送直後から役場の電話が半日つながらなかったという話を聞き、驚いたことがありました。現在は、生産するメロンの大半が返礼品向けになっています。

寄付者の「おいしかったです。来年も寄付します」といったメッセージが何よりもうれしく、メロンづくりの励みになっています。



▲アンデスメロン 例年7月中旬から下旬にかけて多くの注文をいただきます。